

研究主題

生徒の資質・能力を育むための授業の工夫と改善
～基礎学力の定着と向上を目指して～

1 研究の仮説

- ① 生徒の実態に応じて、学習指導を工夫し、個に応じたきめ細やかな指導を行えば、生徒が主体的に学ぶ意欲は向上するであろう。
- ② 教師が全教科・全領域で育む資質・能力を意識した授業を実践すれば、生徒は基礎的・汎用的能力を身に付けることができるであろう。また、生徒は自らの夢や目標が明確になり、学習意欲が向上し、学力が向上するであろう。

2 研究の基本方針

- (1) 新学習指導要領へ発展できるような取組を展開していく。
- (2) 学校教育目標を達成するために、各部各係と連携協力した研究活動を行う。
- (3) 生徒の変容（成長・向上）を中心にすえた研究活動を行う。
- (4) 具体的な研究活動を通して、教師の資質や能力の向上を図る。
- (5) 学校、保護者、地域社会と連携を図りながら、研究活動を推進する。

3 具体的な実践事項

- ①生徒の資質・能力を育むための指導方法の工夫改善
- ②道徳、特別活動、総合的な学習の時間で各教科等を繋ぎ、生徒の資質・能力を育成する
- ③すべての教育活動の中での規律、規範意識の醸成
- ④研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上

具体的実践事項（案）

(1) 生徒の資質・能力を育むための指導方法の工夫改善（学力の充実と教師の授業力向上）

- ①生徒の実態に応じた少人数指導の工夫
- ②年間指導計画の見直し
教育活動（各教科の単元や学校行事、委員会活動、道徳や総合的な学習の時間の活動など）を「点」にたとえ、それらの「点」が結びつくことで「線」ができたり、「線」がより合わさることで「面」になったりというふうにはなっていないことが課題である。（活動の断片化）
- ③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・タブレット型端末を活用した授業開発及び実践
 - ・学習の見通し、学習の振り返りの工夫
 - ・自主的、自発的な学習が促されるような工夫
 - ・話し合いの進め方カードの活用
- ④学習評価の充実
 - ・学習の過程の評価（形成的評価）、学習の成果の評価（総括的評価）を指導の改善に生かし、生徒の学習意欲の向上につなげ、生徒の資質・能力の育成に生かす。

⑤城山小学校、池上小学校、高橋小学校の3校との連携を図る

※基礎基本の定着のために

- ・朝読書の時間の定着
- ・放課後の定期的な学習支援
- ・ドリルパークによる基礎基本の定着

(2) 道徳、特別活動、総合的な学習の時間で各教科等を繋ぎ、生徒の資質能力を育成する

①道徳の時間の確実な実施

※「基礎的・汎用的能力」の育成や、これらの能力育成を通じた勤労観・職業観などの価値観形成のためには、基盤となる自己の判断基準となる価値観形成が求められる。その価値観は、道徳を通して自覚させ、再構築される。（「中学校キャリア教育の手引き」文部科学省 より）

②道徳指導の充実と規範意識の確立

③特別活動を通して、各教科での取組を「つなぐ」（体験活動の充実）

※具体的方策：ナイストライ、集団宿泊訓練、職場調べ・高校調べ等において

- ・事前学習において職場体験のねらいを明確化する。（基礎的・汎用的能力からの視点）
- ・事後指導では生徒にとってお互いの体験が共有できるようにする、働くことの意義などを振りかえり、再考し明確化する
- ・発表とプレゼン力の強化・育成

(3) すべての教育活動の中での規律、規範意識の醸成

① 日常指導の確実な実践：凡事徹底

② あいさつ、掃除、遅刻ゼロ

③ 教育環境の充実：環境緑化の推進「花いっぱい学校」、整頓されたな室内と掲示活動の充実

(4) 研修内容の工夫と、教師の資質及び指導力の向上

① タブレット型端末活用のための研修の充実

② 地区別人権教育研修会に向けた取組

※②においては推進委員会を設置し、企画・立案を行い全職員に周知徹底し内容の充実を図る。